

第4学年 国語科学習指導案

4 年 19名
指導者 水 口 順 子

1 単元名 お手紙発表会をしよう ～物語の中の〇〇さんへ～

2 指導にあたって

(1) 単元設定の理由

本学級では、本の好きな学習者が多く、朝の読書の時間などは静かに本に読み耽っている。しかし、読書冊数は個々によってたいへん開きがあり、文字数の少ない本や娯楽的な本ばかり読もうとする学習者もいる。その原因として、内容を読み取る力が十分でないために、様々な本を読み味わうことができないということがあると思われる。そこで、4年生では、物語の学習を通して読み取る力をしっかりと育てていきたいと考えている。

物語の学習としては、これまでに、『三つのお願い』で、叙述から場面の情景や登場人物の心情を読み取り、それが表れるように音読したり、登場人物に手紙を書いたりした。同年代の子どもの友達関係が描かれているので理解し易く、手紙も意欲的に書くことができた。『白いぼうし』では、言動から人柄を想像したり、色・におい・たとえの表現から情景を想像したりした。また、読み取ったことをもとに、お話の気に入ったところについて自分の考えをまとめる活動も行った。それを交流することにより、一人一人の感じ方に違いがあることに気付き、考えを深めることができた。

本単元では、『一つの花』と『まっ黒なおべんとう』を読んで、登場人物に手紙を書き、お手紙発表会を開く。手紙を書いて発表するという目標をもって学習を進めることにより、主体的に取り組むことができると考える。どちらも、戦争中の家族の物語で、厳しい生活の様子とともに親の子どもに対する深い愛情が描かれている。戦争を扱った文学としては、3年生で『ちいちゃんのかげおくり』を学習しているものの、学習者にとってはまだまだ未知の世界であり、そこへ足を踏み入れ、当時の状況や人々の心情を知ることには大きな意義があると考えられる。場面と場面を叙述に即した想像でつなぎながら読むことにより、戦争の悲惨さ・平和の尊さに気付くとともに、親が子どもに深い愛情を注いでいたことを感じ取ってほしい。学習を進めるにあたっては、毎時間、めあてをはっきりともたせ、達成できたかどうか自己評価をさせることにより、自覚的に学べるようにしたい。また、『一つの花』を学習した後、その学びを生かして『まっ黒なおべんとう』を読み取ることにより、学習者自身が学びの成果を自覚できるのではないかと考える。こうして、内容を正確に読み取ることに加え、読み取ったことから様々なことを感じ取ることができるようになれば、学習者の読書の世界が広がると考え、本単元を設定した。

本時は、『一つの花』のゆみ子と『まっ黒なおべんとう』のしげるのどちらに手紙を書きたいか、手紙でどんなことを教えてあげたいかを考える。親の愛情について、それぞれの物語から読み取ったことをもとに考えをまとめることができるようにしたい。そして、それを友達と交流することにより、さらに読みが深まるようにしたい。

(2) ことばを大切に、「読むこと」を通して、自分の考えを深め表現できる力を育てる手だて

- 二つの物語を重ねて読むことにより、戦争中の状況や人々の心情を叙述をもとにしっかりととらえ、考えを深め表現することができるようにする。
- 考えを交流する場を多く設定し、友達の考えと自分の考えを比べることにより、考えが深まるようにする。

3 単元の目標

(1) 学習者の活動目標

- 物語の中の人に手紙を書き、お手紙発表会をしよう。

(2) 指導目標

- 場面の様子や登場人物の心情を進んで読み取ることができるようにする。
- 叙述をもとに、場面の様子を読み取ったり、登場人物の心情をとらえたりすることができるようにする。
- 読み取ったことについて自分の考えをまとめるとともに、友達の考えにふれ、一人一人の感じ方に違いがあることに気付くことができるようにする。
- 読み取ったことをもとに、登場人物に手紙を書くことができるようにする。

4 評価について

	評価規準	「十分満足できる」状況 「おおむね満足できる」状況にするための手だて	評価の資料
関心 ・ 意欲 ・ 態度	場面の様子や登場人物の心情を進んで読み取ろうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・「十分満足できる」状況 場面の様子や登場人物の心情を、他の場面や現代と比べながら読み取ろうとしている。 ・「おおむね満足できる」状況にするための手だて 事前に戦争中のことを描いた絵本の読み聞かせをし、興味を持たせたり、戦争についての補助資料を用意したりする。 	学習者の様子 学習の記録
読むこと	<p>叙述をもとに、場面の様子を読み取ったり、登場人物の心情をとらえたりしている。 (読むことウ)</p> <p>読み取ったことについて自分の考えをまとめるとともに、友達の考えにふれ、一人一人の感じ方に違いがあることに気付いている。 (読むことエ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「十分満足できる」状況 叙述をもとに、場面の様子を豊かに想像したり、登場人物の心情を深くとらえたりしている。 ・「おおむね満足できる」状況にするための手だて 繰り返し音読や黙読をすることにより、内容を正確にとらえることができるようにする。 重要な文を視写させることにより、読み取りを焦点化する。 ・「十分満足できる」状況 読み取ったことについて自分の考えをまとめ、分かり易く伝えるとともに、友達の考えにふれ、考えを深めている。 ・「おおむね満足できる」状況にするための手だて 友達の考えをよく聞き、自分の考えと比べさせる。 	<p>学習の記録 発言</p> <p>学習の記録 発言</p>
書くこと	読み取ったことをもとに、考えたことを手紙に書いている。 (書くことア・イ)	<ul style="list-style-type: none"> ・「十分満足できる」状況 読み取ったことをもとに、考えたことを相手によく分かるように手紙に書いている。 ・「おおむね満足できる」状況にするための手だて これまでの学習の記録を参考にさせる。 	手紙

5 学習計画 (全13時間)

身に付けさせたい力	学習活動と指導 (★)	学習者の意識の流れ
<p>[関心] 場面の様子や登場人物の心情を進んで読み取ろうとする。</p> <p>[読む] 目的に応じて、音読や黙読など様々な読み方をする。</p> <p>[読む] 叙述をもとに、場面の情景を想像する。</p> <p>[読む] 登場人物の心情をとらえる。</p> <p>[読む] 読み取った内容について、自分の感想や考えをもつ。</p> <p>[読む] 友達の感想や意見に触れ、自分との共通点・相違点に気付く。</p> <p>[書く] 感想や考えを文章に書く。</p>	<p>(事前)</p> <p>★ゲストティーチャーの話や読み聞かせなどで、戦争時への関心を高めておく。</p> <p>1 学習の計画を立てる。 (1時間)</p> <p>★『一つの花』、『まっ黒なおべんとう』を読み、物語の中の人に手紙を書いて発表会をするという目標のもとに、計画を立てさせる。</p> <p>2 『一つの花』を読む。 (7時間)</p> <p>★お母さんとお父さんのゆみ子に対する思いが表れているところに着目しながら読ませる。</p> <p>★一つの花に込められた、お父さんの思いに気付かせる。</p> <p>3 『まっ黒なおべんとう』を読む。 (2時間)</p> <p>★お母さんのしげるに対する思いが表れているところを見付け、思いを読み取らせる。</p> <p>4 手紙を書き、お手紙発表会をする。 (3時間 本時1/3)</p> <p>★ゆみ子としげるのどちらに手紙を書くか、どんなことを書くか考えさせる。</p> <p>★教えてあげたいことを手紙に書かせる。</p> <p>★家の人の前で手紙を読み、感想を言ってもらう。</p>	<p>Aさんから戦争の話聞いたよ。</p> <p>「ちいちゃんのかげおくり」を習ったよ。</p> <p>本で読んだり、ビデオで見たよ。</p> <p>戦争中のことについてもっと知りたいな。</p> <p>『一つの花』『まっ黒なおべんとう』を読んでみよう。そして、分かったことをもとに、物語の中の人にお手紙を書こう。お手紙発表会も開こう。</p> <p>『一つの花』を読もう。</p> <p>戦争中は厳しい生活をしていたんだな。</p> <p>お父さんやお母さんはゆみ子のことを大切に思っていたんだな。</p> <p>お父さんはいなくなっても、ゆみ子は明るく生きているんだな。</p> <p>ゆみ子ちゃんに、お父さんやお母さんがどんなにゆみ子ちゃんを愛していた(いる)か教えてあげたいな。</p> <p>『まっ黒なおべんとう』も読もう。</p> <p>原爆は本当に恐ろしいな。</p> <p>一つの花と似ているところがたくさんあるな。</p> <p>お母さんはしげるのことを愛していたんだな。</p> <p>しげるくん、お母さんがどんなにしげるくんを愛していた(いる)か教えてあげたい。</p> <p>ゆみ子ちゃんかしげるくんにお手紙を書こう。あのことを教えてあげたいな。</p> <p>お手紙発表会で、家の人にも聞いてもらおう。</p> <p>親の愛情って戦争中も今も変わらないんだな。</p> <p>本はいろいろなことを教えてくれるな。戦争中のことが書いてある本、家族の愛が描かれている本をもっと読んでみよう。そして、紹介し合おう。</p>

6 本時の学習

(1) 目標

① 学習者の活動目標

だれに手紙を書くか、どんなことを書くか決めよう。

② 指導目標

読み取ったことについて、自分の考えをまとめることができるようにする。

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点	具体の評価規準
1 前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。	・教えてあげたいことを手紙に書くことを確認し、めあてをもつことができるようにする。	
だれに手紙を書くか、どんなことを書くか決めよう。		
2 読み取ったことをもとに、ゆみ子としげるのどちらに手紙を書くか、どんなことを書くか考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習で使った付箋を貼ったワークシートを利用し、付箋を並べ替えることで、書きたいことが明確になるようにする。 ・何を教えてあげたいかを考えて、相手を選ぶようにさせる。 ・教えてあげたいこととして、親の思いが強く表れているところを選び出すことができるようにする。 	読み取ったことについて、自分の考えをまとめている。
3 手紙を書く相手や教えてあげたいことについて話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と考えを交流し、一人一人の感じ方に違いがあることに気付かせる。 ・話し合ったことをもとに再度考えて、書く相手や書くことを決めさせる。 ・友達の意見によって考えが変わったり深まったりしたことをほめ、友達の意見を聞こうとする意欲を高める。 	
4 本時の学習を振り返り、次時への課題をもつ。	・めあてが達成できたかどうか振り返らせ、次時への意欲がもてるようにする。	

(3) 評価

評価規準 「十分満足できる」状況	「おおむね満足できる」状況にするための手だて	評価の資料
読み取ったことについて、自分の考えをまとめ、分かり易く伝えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習の記録を参考にさせる。 ・『一つの花』で学習した心情をとらえるための読み方を思い起こさせる。 ・友達の発言を手がかりにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の記録 ・発言